



# ヘイダル・アリエフ - 100



アミナ・メリコバ  
美術史哲学博士

# その名にふさわ しい者となる



形式の流動性は歴史的にイスラム建築に固有のものでした。ここでは、多数のグリッドまたは列のシーケンスが森の木のように無限に流れ込み、階層的な空間を作成します。連続的なカリグラフィや装飾的なパターンがカーペットから壁、壁から天井、天井からドームへと流れ、シームレスな関係性を確立し、建築要素と周囲の環境との区別を曖昧にします。私たちはこの建築の歴史的な理解に新たな刺激を与え、伝統に基づいた新たなアイデンティティを創造することを意図していました。」

有名なザハ・ハジドのお気に入りのプロジェクトであるバクーのヘイダル・アリエフ・センターのイデオロギック内容をこのように定義しました。建築家は、ヘイダル アリエフ センターを、彼女の会社ザハ ハジド アーキテクツの最も重要なプロジェクトの 1 つと考えました。2014 年に最も名誉ある建築賞の 1 つを受賞し、ロンドン デザイン ミュージアムが「今年のデザイン」（「2014 年のデザイン」）として認めたこの建物は、大規模な建築物に調和して統合された、飛び交う形態に驚かされます。風景、その条件は作者によって受け入れられ、ヘイダル・アリエフ・センターの建築的外観の有機的な継続となりました。

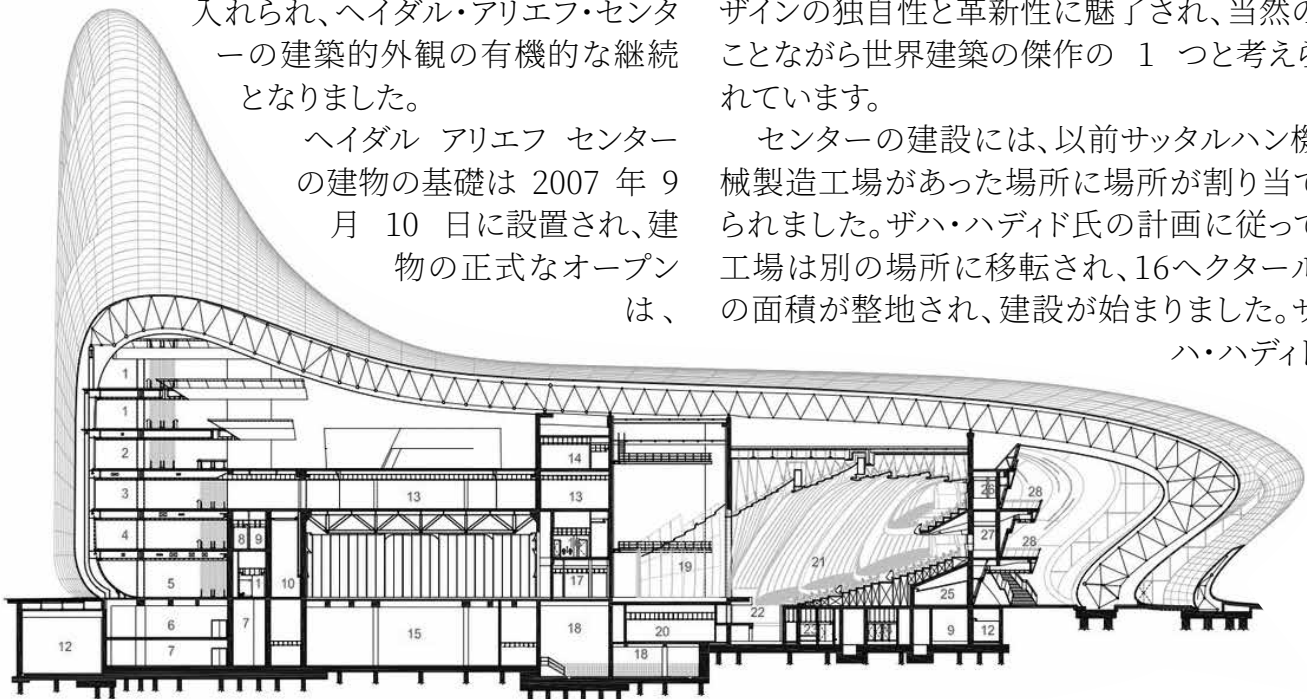
ヘイダル アリエフ センターの建物の基礎は 2007 年 9 月 10 日に設置され、建物の正式なオープンは、

世界的に認められた国家指導者ヘイダル アリエフの 89 周年にあたる 2012 年 5 月 10 日に行われました。

ヘイダル・アリエフ・センターは、国家建設の哲学、アゼルバイジャン主義のイデオロギー、およびヘイダル・アリエフの遺産を広く促進することを目的として、アゼルバイジャン共和国イルハム・アリエフ大統領の法令に従って設立されました。科学、教育、文化、医療、スポーツ、生態学、経済およびその他の分野におけるアゼルバイジャン民族の国家指導者ヘイダル・アリエフの遺産の保存と発展の分野における活動の実施と提案の準備; アゼルバイジャンの歴史と文化、アゼルバイジャン語、国家のおよび精神的価値観を国際規模で紹介および宣伝すること、科学、教育、文化、さまざまな分野で支援を提供; これらの分野の開発を目的としたプロジェクトの実施; 会議、シンポジウムの開催、博物館、展覧会、博覧会の開催、およびセンターの活動分野に関連するその他のイベント; ヘイダル・アリエフの遺産を研究する分野で他の組織との協力を確立し、発展させます。

ヘイダル アリエフ センターは、その建築デザインの独自性と革新性に魅了され、当然のことながら世界建築の傑作の 1 つと考えられています。

センターの建設には、以前サッタルハン機械製造工場があった場所に場所が割り当てられました。ザハ・ハジド氏の計画に従って工場は別の場所に移転され、16ヘクタールの面積が整地され、建設が始まりました。ザハ・ハジド







は、高度の変化とほぼ垂直な斜面の自然のテラスを利用して、複雑な空間のつながりを作り出すことに成功しました。広大な空間を見れば、自然は直線を排除するというアントニ・ガウディの原理を意図的に強調するかのよう、センターの幾何学を開発する際に建築家が直線を完全に排除したことに気づかないわけにはいきません。

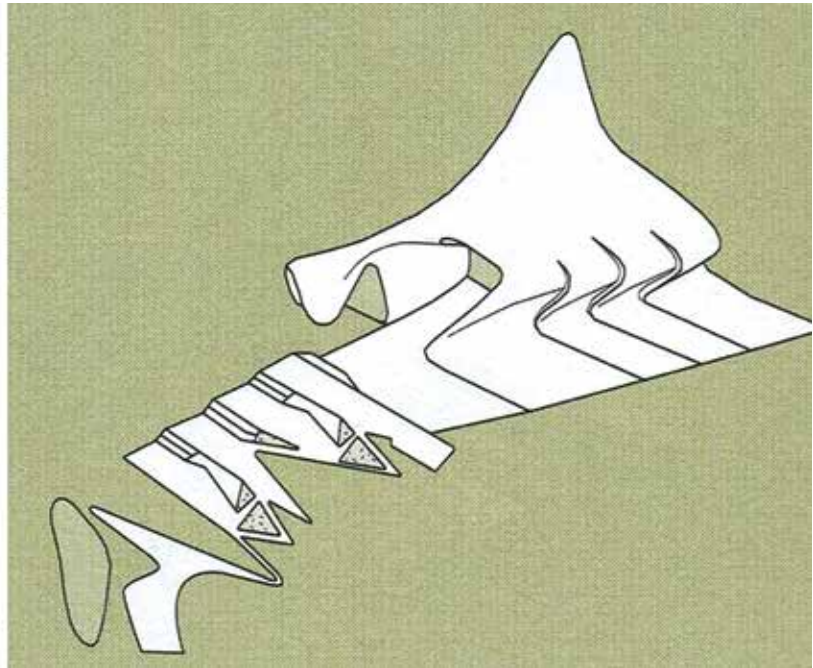
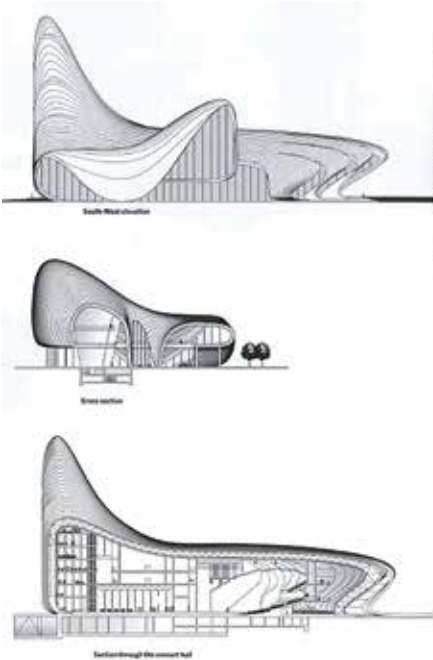
ここでは、建築的要素と象徴的な要素が驚くほど調和して組み合わされています。パラメトリック デザインとモダンな素材により、ポストモダンの第一人者は、大都市の建築と景観、建物のファサードと都市広場、人工物と地面、内部と外部の区別を曖昧にする構造を作成することができました。

建設期間中からすでにこの建物は世界のメディアの注目を集めていました。この建物の建設は、ディスカバリー チャンネルとサイエンス チャンネルの番組「Build it Bigger」のエピソードの 1 つで取り上げられ、現代の最も大胆なエンジニアリング プロジェクトと世界の建築の傑作を特集しました。番組中、プレゼン

ターのダニー・フォスター氏はセンターについて「これは単なる文化センターではなく、世界における自分の立場を主張する方法だ」と語りました。

未来への志…それは、センターの建物自体の輪郭にも、その周囲に広がる約13.58ヘクタールの公園エリアにも「読み取れる」、広々とした緑の芝生が、幾何学的な池と明るい「階段」の小道に変わります。したがって、超近代的な大都市のイメージを形成したこの複合施設が、2013 年秋にシンガポールで開催された世界建築フェスティバルで専門家から熱狂的な評価を受けたのは当然のことです。ここで名誉あるプリッツェカー賞を受賞した初の女性受賞者は、ポストモダニズムの精神に忠実であり続けました。爆発するようなまばゆい白さは、本当に忘れられない印象を残します。

ヘイダル アリエフ文化センターの建築ソリューションは、コンクリート構造と多数の空間フレームという 2 つのシステムのコラボレーションに基づいています。訪問者が内部の流動



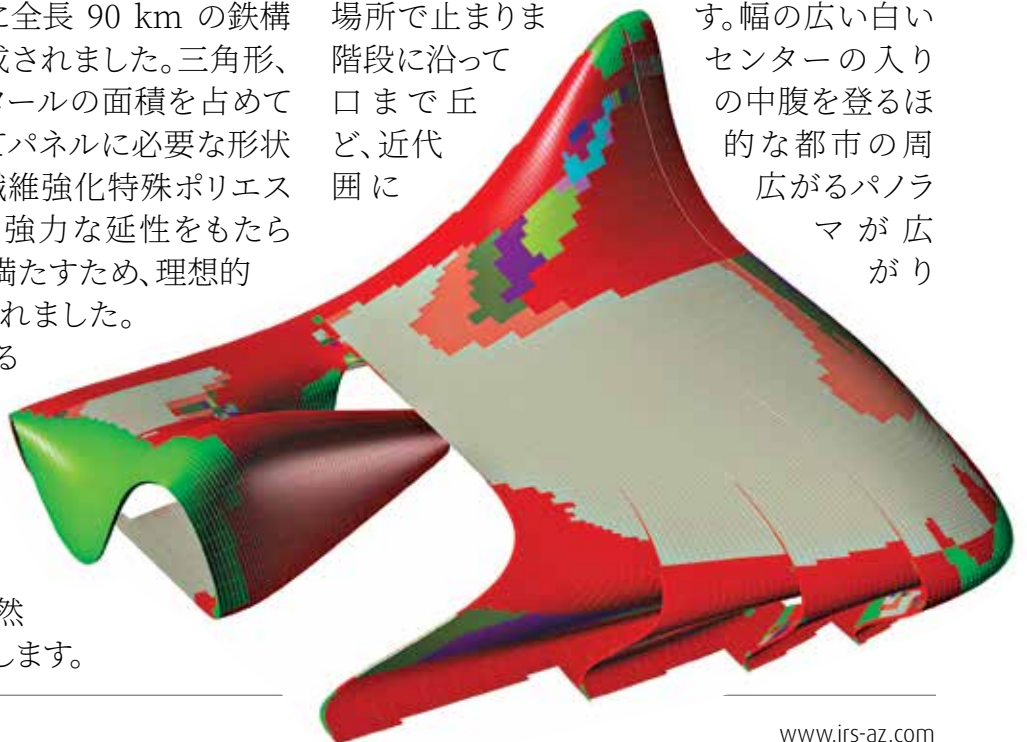
性を体験できる大きな空間を作り出すために、垂直構造要素は囲いパネルとカーテンウォールのシステムによって隠されています。

建物の外装の建築的開発は、ポストモダニズムの巨匠にとってプロジェクトの最も重要であると同時に複雑な要素の1つとなりました。著者の考えによると、その形状は打ち寄せる波に似ています。屋根はさまざまな幾何学的形状の12,027枚のパネルで構成されており、建物の建設中に全長90kmの鉄構造のネットワークが作成されました。三角形、長方形、台形が4ヘクタールの面積を占めています。真空を使用してパネルに必要な形状を与えました。ガラス繊維強化特殊ポリエステルは、建物の構造に強力な延性をもたらし、幅広い機能要件を満たすため、理想的な外装材として選択されました。

パネルの白い色は明るい未来を象徴しているだけではありません。そのおかげで、太陽光線が建物の珍しい形を強調し、その外観は時間の経過と自然光の変化とともに変化します。

内部から外部へ向かう照明により、建物の夜景を演出します。内側から外側の表面に向けられ、形式的な構成を展開する発光ラインは、その内容を明らかにし、内側と外側の調和を維持します。複合施設の最高点の高さは74.1メートルです。シェルは建物にモノリシックな外観を与えます。それは連続したボリュームとして読み取られ、広場の建物を取り囲む表面にも伝わり、地面に広がり、任意の場所で止まりま

す。幅の広い白いセンターの入りの中腹を登るほどの都市の周広がるパノラマが広が







ます。上り坂は広々としたプラットフォームと交互にあり、垂直の壁を下って人工貯水池の広いボウルに流れ込む滝の形をした噴水によって制限されています。

大都市の「海」の上に島のようにそびえ立つ。白い山頂が見えてきます。作者の想像力によって、ハイダル・アリエフ文化センターは、あたかも風と水が長い間作用してきたかのように、奇妙で滑らかな曲線を描く形で具体化されました。そしてその中には本物の宝物が保管されており、広く、見事に、そして教育的に紹介されています。

同センターの建築面積は約10万1,801平方メートルです。さまざまな展示が行われる最大級のスペースです。建物の最上部にあるサロンでは、常設展示と特別展示、季節展示やプロジェクト展示が行われます。。教育的で、アゼルバイジャン本来の文化を鮮やかに

反映しています。。それらのそれぞれは、大気の可塑性の独自性に有機的に適合します。美術館内のすべての空間を支配する柔らかな光の流動性に浸された傑作は、コミュニケーションの遅さを決定付けているように見えます。文化遺産に特化：民族衣装、工芸品、食器、楽器（後者には録音が付いています）、展示品は訪問者にとって本物のように見え、重要な貿易ルートの交差点で次々と続いた歴史的段階の変遷に訪問者を導きます。

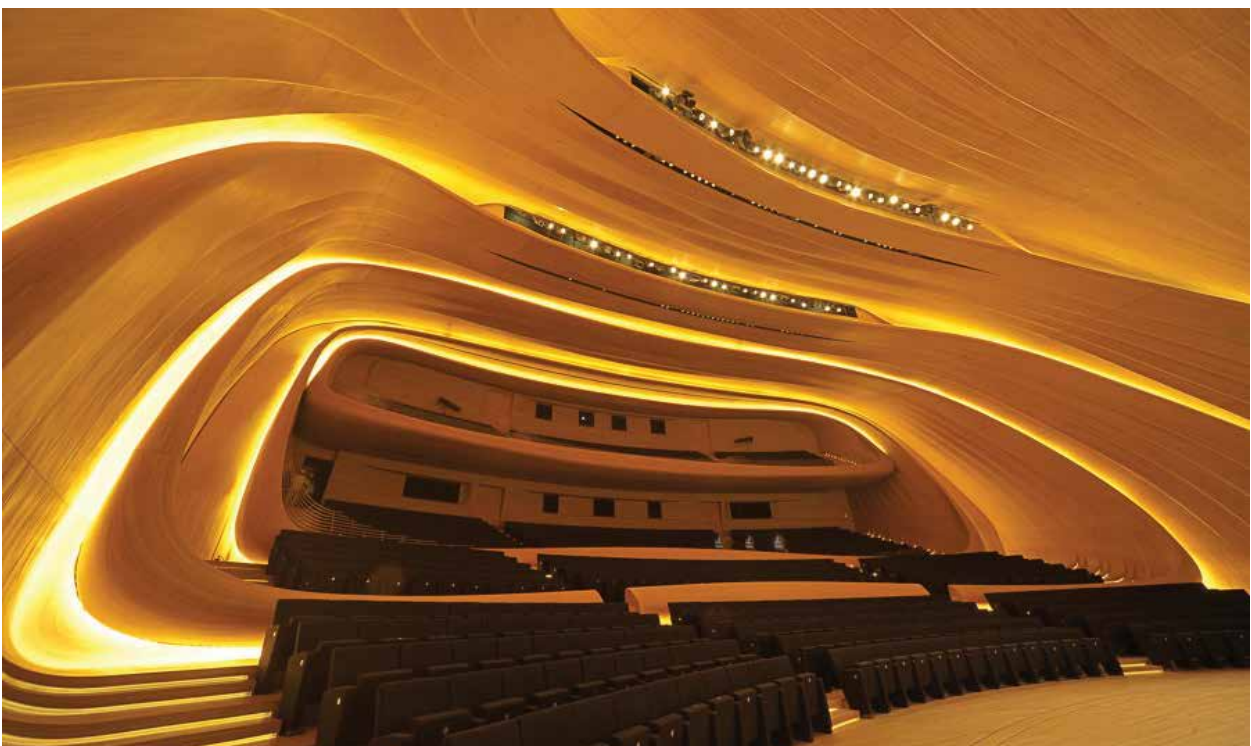
センターの本館は、ハイダル アリエフ博物館、展示ホール、講堂の 3 つの部門で構成されています。9 階建ての展示ホール部門には、ショールーム、管理オフィス、レストラン、カフェが入っています。4階建ての「講堂」は、講堂自体、2つの会議室、公式会議や会議用の部屋、メディアセンターで構成されています。建物には、自然の装飾用の木や花で構成さ



れる美しいエリアもあります。また、建物内にはさまざまなインタラクティブな情報キオスクがあり、ゲストはセンターやここで開催されるイベントに関する情報を入手できます。建物複合施設には地下駐車場が含まれていません。

ヘイダル・アリエフ博物館。建物の 1 階にある博物館の入り口には、1969 年から 2003

年までアゼルバイジャン中央委員会第一書記が最初に使用し、その後アゼルバイジャン大統領ヘイダル・アリエフが使用した公用車のコレクションがあります。その他の展示品は、政治指導者の人生というプリズムを通して、国の歴史、国家の成立、経済、文化、スポーツの分野における国家の業績を反映するように配置されています。オフィスの再現されたイン







テリア、賞品や贈り物に加えて、センターの訪問者は興味深い写真年代記を見たり、ヘイダル・リエフと他国の首長や著名人らとの会談が地球儀を使って視覚化されたインタラクティブな部屋を訪れることができます。

博物館を建設する際には、アゼルバイジャンの歴史のさまざまな時期、ヘイダル・リエフの生涯と作品を反映することに特別な注意が払われました。博物館の3階建ての建物では、ヘイダル・リエフの生涯が写真とビデオ資料の助けを借りて紹介されています。この博物館は、その形式と内容の独創性の両方で際立っています。1923年から2003年までのヘイダル・リエフの生涯とともに、アゼルバイジャンの社会政治生活におけるさまざまな歴史的時期に起こった重要な出来事が訪問者の注目を集めます。ソビエト時代と独立時代のヘイダル・リエフの活動のさまざまな側面が、博物館の「写真に捉えられた人生」、「アゼルバイジャンの社会政治的生活」、「私たちの国家、遺産、実績」。各トピックに関する音声情報はアゼルバイジャン語と英語で提供されます。博物館のセクションの1つは、ヘイダル・リエフと各国の指導者との会談を反映したマルチメディアホールです。したがって、ここに設置されている地球上の国々の画

像に触れると、背景にヘイダル・リエフと各国首脳の写真や彼に贈られた贈り物が表示されます。贈り物自体も博物館に展示されています。ホールにはヘイダル・リエフの軍服や民間服、机、命令書、勲章も展示されています。

展覧会「アゼルバイジャンの真珠：歴史の流れの中で」。ザハ・ハジドの傑作の1階に







位置するこの展覧会では、国の歴史と文化遺産に焦点を当てたユニークな展示が行われます。ゴブスタンの岩絵のサンプル、古代のコインや宝石、粘土や銅で作られた中世の製品、コーラン、聖書、律法の古代コピーなどをご覧ください。もちろん、アゼルバイジャンの伝統的な絨毯や楽器は欠かせません。ちなみに、その音は聞くことができます。

展覧会「ミニアゼルバイジャン」。センターの2階には、首都やその他の地域の歴史的建造物や建築物45か所の模型が展示されています。小さなバージョンで見ることができるもの：乙女の塔、モミネ・ハトゥン廟、バクー駅、フィルハーモニックビル、イスマイリアビル、アゼルバイジャン政府の家やグリーンシアターなどのソビエト建築の例もあります。最後に、現代のかつ「未来」の建築、バクー クリスタルホールとフレイム タワー、そしてアゼルバイジャン石油基金の建物の模型です。

クラシックカーの展示。

ここでは、19世紀末から現在までに生み出された、各国の自動車産業の傑作が魅惑的な光の中で展示されています。この展示会

では、自動車産業の歴史をゲストに紹介します。この展覧会では、ドイツ、アメリカ、フランス、イタリア、イギリス、およびソ連崩壊後の国々からの展示品が展示されます。クルマのほか、オリジナルのガソリンスタンド、写真・映像資料、新聞・雑誌なども展示しています。

一時的な展示会。ヘイダル アリエフ センターは、開館以来、世界的に有名な写真家、彫刻家、アーティスト、デザイナーの作品の展覧会を多数開催してきました。その中にはアメリカのポップアートアーティスト、アンディ・ウォーホルもいます。アゼルバイジャンで初めて開催されたこの展覧会では、ウォーホルの短編映画を含む同アーティストの作品100点以上が展示された。絵画における「厳格なスタイル」の創設者の一人として知られる傑出したアゼルバイジャンの画家タヒル・サラホフの展覧会では、100点以上の作品が展示されたほか、カーペットに描かれた彼の作品も展示されました。ズラブ・ツェレテリの大規模な展覧会がセンターのホールで開催され、ドイツの自然写真家テオ・アロフスとメキシコの彫刻家ジョージ・マリンの作品が展示されました。



文化センターの内部空間は、アーティストの創造的な研究を特別に展示しています。それぞれの展覧会はその展覧会に「適合」し、常に未来への願望に注目してきた建築家の根底にある独創性を継続しているように見えます。それが、現代美術がそのために特別に選ばれた場所に非常に有機的に「存在」する理由です。フロアからフロアへと移動しながら、センターの訪問者は一種の万華鏡の中に「没入」し、次の移行は、世界文化にその名前がしっかりと関連付けられている作家による芸術作品で構成される新しい「描画」です。したがって、サルバドール・ダリの遺産は、トルコの抽象芸術家デヴリム・アルビルの個展と「超現実的な彫刻」に「穏やかに流れ込み」ます。「Almost Alive」は、16ヶ国の芸術的な人形の展示と調和します。センターが多数の会場で開催する現代美術の有名な代表者のテーマ別展示は、さまざまな国や人々の文化間の時間と空間のつながりを示しています。例えば、レザー・デガティとイエヴァ・クルミナの作品が参加したアゼルバイジャンとラトビアの共同展覧会「天と地の間」などです。グルジア

国立博物館のイレヴァンにあるサルダール宮殿のアゼルバイジャンと東洋のコレクションのユニークな傑作「歴史の傑作」と「モダニズムとファッション」が「輝いていた」のは、文化センターの壁の中でした。ここでは、ブラジル人のニーナ・パンドルフォによる落書き、バーレーンの芸術家、王室メンバーであるシェイク・ラシッド・アル・ハリファによる優れた作品、国立トレチャコフ美術館とロシア・イコン博物館の図像の傑作や宗教彫刻を見ることができました。

コンサート、演劇、会議、シンポジウム。ヘイダル アリエフ センターの多層的な構成は、その空間で開催されるイベントの多様性を建築的に視覚化していると言わなければなりません。センターはしばしばコンサート会場になります。講堂の内装はカナディアンオークで覆われており、素晴らしい音響を誇ります。モスクワ音楽劇場「ヘリコン・オペラ」の俳優、ウィーン・シュトラウス管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、グラミー賞を 8 回受賞した声楽六重奏団「テイク 6」、世界的なオペラの声楽スター、有名な音楽グループやソリスト。ここで発表さ





れた音楽アルバム「Voice of Karabakh」は、音楽には国境や言語の壁がないという前提を明確に反映したプロジェクトです。

オーディトリウムの舞台そのものが、社会への重要なメッセージを蓄積する場となります。各国の指導者が参加する数多くの国際会議

やフォーラム、代表団の会合や議論。それぞれが地球文明において「言葉」が果たす役割を明確に示しています。たとえば、サドゥグルの世界観がグローバル インフルエンサー デーにどのように組み込まれています。

アゼルバイジャンの国家指導者ヘイダル・アリエフの生誕100周年の年に、センターは国民と多くの来賓にとって注目の中心となりました。一連の儀式行事と、アゼルバイジャンの偉大な息子の物語と記憶の認識をその枠組みの中で真実性を与える私物や贈り物の最も完全な公開コレクション - これは、祖国への奉仕に生涯を捧げた世界的に認められた指導者の一人の天才に触れるまたとない機会です。ヘイダル・アリエフが残した遺産は尽きません。

長年の活動を通じて、ヘイダル・アリエフ文化センターは、最も重要でエキサイティングなイベントが開催される主要なプラットフォームとして認知されてきました。センターで開催される各イベントは、芸術がアゼルバイジャンの歴史





的過程に浸透する多文化主義の大使であるという、このユニークな複合施設全体に内在する深い思想を強調しています。経済関係の重要な「動脈」の一部です。その土地では今日に至るまで、さまざまな国籍や宗教が平和に共存し、相互浸透による驚くべき共生関係を形成しています。こうして、我が国が誇る独自の本物が生まれました。これは常にヘイダル・アリエフの注目の的であり、彼の名前は、ザハ・ハディドによって設計段階で指定された、意味論的な内容の飛行「ストローク」によって永遠に象徴的に封印されています。そして 11 年間、彼女の建築発案の壁の中で起こるすべての出来事を、途切れることのない線がたどり続けています。

歴史の奥深くに根ざし、その柔らかな曲線の速さを未来に向け...信じられないほどのソリューションの統合と大胆な空想の具現化の持続可能性を受け入れます...魅力的ではありますが、それがどのような形をしているのかを理解するための答えはありませんが、センターのアンサンブルはただ調和して形を持たず、それがそれを不可能なほど美しいものに

しています... 文化間の対話の架け橋のようなもので、翻訳せずに理解でき、多様性の中の統一性を証明します...

ザハ・ハディドさんはバクーのヘイダル・アリエフ・センター・プロジェクトについて、「私にとって、それは地に足をつけて羽を広げる機会だった」と語りました。彼女の作品は世界に類例がなく、アゼルバイジャンの自給自足と野心を世界に向けた真剣な表明となりました。その中心は異星の花、あるいは巨大な海の波のようだと表現されました。彼らはそれを砂丘や遠い未来の宇宙船に例えました。

インターネット上のさまざまなプラットフォームに多数残されているレビューを見ると、ほぼすべての人がその独自性を指摘しています。

アゼルバイジャンの首都の新しいシンボルの 1 つとなったヘイダル アリエフ センターには、驚くべき魅力があります。そして、少なくとも一度は建築の奇跡を自分の目で見た人はそれぞれ、そこに何か異なるものを想像します。◆